



2013年7月 第11巻第7号

かく語りき—聖人の言葉

「快適さは真理の試金石などではない。それどころか、真理は快適とはほど遠いことが多い」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「苦悩からの逃げ場所へと世界を導ける案内人は知られておらず、あなたの崇高な計画を進め動かすものが何かを知る者も知られていない」

(『ガーサー』(The Gathas・ゾロアスター教の賛歌))

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・8月の予定
- ・スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
生誕150周年祝賀会開会式
2013年6月9日東京・インド大使館
「歓迎の言葉」 スワミー・メー
ダサーナンダ師
- ・スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
生誕150周年祝賀会来賓のスピーチ

「西洋に対するスワミー・ヴィヴェーカーナンダの影響—個人的並びに集団的生活に関する未来予測—」
スワミー・アートマージュニャーナナンダ師

- ・スワミー・ヴィヴェーカーナンダの未発表の書簡、発見
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

8月の予定

・生誕日・

スワミー・ラーマクリシュナーナンダ 8月4日(日)

スワミー・ニランジャナーナンダ 8月21日(水)

シュリー・クリシュナ・ジャンマシュタミ 8月28日(水)

・行事・

8月3日(土) 14:00~16:00

東京・インド大使館例会

講演：バガヴァッド・ギター (無料)

場所：インド大使館 : 03-3262-2391

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

8月4日（日）、11日（日）、25日（日）
14:00～15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子本部 新館アネックス

*体験レッスンもできます。

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

8月17日（土）17:00～

シヴァーナダ・ヨーガ東京センター
講話

詳細：<http://www.sivananda.jp/>

8月18日（日）10:30～16:30

逗子例会・シュリー・クリシュナ生誕
祭

場所：逗子本部本館

朗誦・輪読・講話・賛歌など

8月24日（土）13:30～17:00

関西地区講話

場所：大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギーターとウパ
ニシャッドを学ぶ」

*詳細は特別プログラムをご覧ください。

*8月のホームレス・ナーラーヤナへの
奉仕活動はお休みです。

ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活
動 毎月第4金曜日

現地でのお食事配布など

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生
誕 150 周年祝賀会開会式

2013年6月9日 東京・インド大使館

「歓迎の言葉」

スワミー・メーダサーナンダ師

ご友人の皆様

運営委員会を代表いたしまして、また
私自身から皆様すべてをスワミー・
ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年祝
賀会の開会式に心から歓迎いたします。

ワシントン DC のヴェーダーンタ・セ
ンター長の僧侶のスワミー・アート
マギヤーナーナンダ師には、この開会
式に出席しお話いただくために忙しい
日程の中、はるばるアメリカから日本
に来ていただき、心から感謝を込めて
歓迎いたします。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダと
彼の師シュリー・ラーマクリシュナを
深く敬愛される著名な仏教学者の駒沢
大学元総長の奈良康明教授を心から歡
迎いたします。奈良教授にも本日はお
話をいただきます。

また、大変喜ばしいことに、シュリマ
ティ・ディーパ・ワドゥワ駐日インド
大使閣下には、主賓としてご出席いた
だいております。インド大使と大使館
の皆様方にはいつもこのような行事の
度にお世話になっております。

主賓の皆様をはじめ、ここにご出席の皆様方すべてを心から歓迎いたします。

私たちは毎年スワミー・ヴィヴェーカーナンダの祝賀会を開催していますが、今年は 150 周年という記念すべき年にあたり、特別な祝賀会であり、インドをはじめ世界各地で祝われています。インド政府は、今年の祝賀会を重要視して国家祝賀委員会の会長にインド首相を任命し今年の 1 月には、インド大統領により開会式が行われました。スワミー・ヴィヴェーカーナンダはマハトマ・ガンディー等、インドの指導者たちだけでなく、レオ・トルストイ、ロマン・ロランのような国外の偉人たちにも深い影響を与えました。

ヴィヴェーカーナンダの生涯の正当性とメッセージは、すでに他界されて 100 年以上たった今日でも、日本の安倍晋三首相やバラク・オバマ大統領の演説などにみられるように、世界中の指導者たちによって繰り返し語られています。

後ほどご紹介させていただきますが、このたび初めていただいた安倍首相からのメッセージには、ヴィヴェーカーナンダの世界平和と調和に満ちた社会、宗教の協調に対する貢献が述べられています。

すでにご存知じかもしれませんが、スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、彼が宗教の協調について壮観な演説をしたことで歴史的に有名になった 1893 年のシカゴでの宗教会議に赴く途上、日本を訪問しました。日本でのこの行事は大変重要であります。ヴィヴェーカーナンダは、日本と日本人、日本文化を敬愛し高く評価していました。そしてインド人、特にインドの若者に日本人の優れた資質を吸収して欲しいと願っていました。

日本の著名な芸術評論家及び学者である岡倉天心は、スワミー・ヴィヴェーカーナンダを再び日本に招待するために、インドを訪問し彼と一定の期間を共に過ごしました。これにより近代日本とインドの交流の架け橋となる礎が築かれ、さらに、詩人ラビンドラナート・タゴールや日本の文化人たちによって強固なものになりました。偶然にも今年は日本では岡倉天心の 150 周年が祝われています。

先ほど述べた安倍首相のメッセージにあるように今日の日本人は、個人的にも国家的にも目的を達成してゆくための自信を至急に取り戻す必要性に迫られています。これに対して、自信、平和、協調性、霊的な価値について語るスワミー・ヴィヴェーカーナンダのインスピレーションにあふれるメッ

セージに日本の人々はきっと高い価値を見出すことでしょう。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダが設立したラーマクリシュナ・ミッションの支部である日本ヴェーダーンタ協会による運営委員会は東京での祝賀会の他、11月30日に大阪で、また熊本では来年の4月12日に祝賀会を開催する予定です。さらに日本の人々に、とりわけ若者たちにスワミー・ヴィヴェーカーナンダについて知ってもらうために、今も進行中ですが展覧会やセミナー、本の出版などのさまざまな活動を行っています。

これらの活動は、ヴィヴェーカーナンダに対する偉大な気づきをもたらし、彼のメッセージについて深く考え、本気で学んでもらうことが目的です。スワミー・ヴィヴェーカーナンダのメッセージは魂の万能薬であり、弱く否定的な心に効く薬であり、ありきたりの人生を理想の人生に変える可能性を秘めていることで知られています。

これらの活動には多くの資金とスワミー・ヴィヴェーカーナンダの名のもとに集う皆様方のような多くの人々の協力が必要です。この私たちの使命が達成できるように皆様方にあらゆる形でのご協力を心よりお願いいたします。私たちすべてにスワミー・ヴィヴェーカーナンダが祝福の雨を注ぎ、

彼が深く愛し責任を感じたこの偉大な国で、彼が果たせなかった使命を遂行する力を与えて下さることを祈ります。

ここに再び皆様に心からの歓迎をお伝えするとともに本日のプログラムの成功を心よりお祈り申し上げます。

「西洋に対するスワミー・ヴィヴェーカーナンダの影響—個人的並びに集団的生活に関する未来予測—」

スワミー・アートマージュニャーナナンダ師

(米国グレイター・ワシントンD.C.のヴェーダーンタ・センター僧長)



初めに、スワミー・メーダサーナンダ師に対し、私の心からなる敬愛の念を捧げ、このたびの祝賀行事に参加するようお招きくださったことに対し、篤く御礼申し上げます。また本日ここでお話しなさる方々を初め、ここにお集まりの皆様に対しても、心からなる御挨拶を申し上げます。私は、このようなお目出度い機会を皆様とともに過ごすことを、本当に嬉しく

思っております。

序論

スワミー・メーダサーナンダ師が私に話すようにと示唆された「西洋に対するスワミー・ヴィヴェーカーナンダの影響」という話題を、私はいささか奇妙な感じで受け取りましたが、それは私たちがふつう日本をアジアや東洋と密接に結びつけて考えているせいなのかもしれません。今や西洋と東洋という区別は次第に無くなりつつありますが、日本はその両者間の間隔を埋め始めたアジアにおける最初の国でありました。過去 50 年間にわたり日本で起こった産業・技術・近代化のすさまじい進歩は、良きにつけ悪きにつけ、所謂西洋文化をこの国の人々に大量にもたらしました。したがって私たちは、仏教、禅、神道などと共に、近代西洋社会の特徴を日本社会の中に数多く見ることができますが、残念ながらこのことは唯物主義や世俗主義へと向かう傾向を産み、こうした傾向はアジア全般に、特に今日のインドにすら現れ始めております。

この話題に関するもう一つの興味深い側面は、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが、1890 年代に二度にわたって西洋を訪問し、東西間の溝を埋めるために大いなる役割を果たしたことであります。米国に滞在中、スワミー

ジは「仏陀が東洋の人々に伝えるべきメッセージをもっていたように、私は西洋の人々に伝えるべきメッセージもっている」という有名な声明を発表されました。ところが、数多くの講演や書簡や図書を通して彼が西洋の人々に向けて発したメッセージは、今や西洋のみならず世界中の人々に対するメッセージとなってしまっております。バクテイ、カルマ、ジュニャーナ、ラージャの四つのヨーガは、すべて米国と英国で書かれ発表されたものではありませんが、今やそれらはインドを初めその他の国々に対する重要なメッセージとなっております。スワミージは、西洋から帰る途中、スリーランカ国のコロンボ市を初めとし北インドのアルモーラに至るまでのインド各地で、実にたくさんの講演をしておられますが、それらの講演は、力点の違いこそあれ、ヴェーダーンタ哲学の原理を説いたもので、彼が生涯を通じて一貫して説いた教えの真髄をなすものであります。

西洋と東洋に対する態度

西洋人の心情や社会を知るにつれ、スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、西洋に関するある種の見解を抱くようになりましたが、そうした見解の多くは、彼自身が米国や英国や欧州諸国を訪れたことによって、正しいものであることを確認いたしました。しかし、彼自身直接観察して得た見解の中で、

のちに訂正したものもいくつかあります。こうして得られた西洋に関する彼の理解は、それまで彼が祖国インドにとって必要でありかつ最大の長所と考えていたものと、全く異なるものでありました。簡単に言うならば、西洋は、富や唯物主義や工業技術や組織力の国であったのです。宗教は、どこにでも見られましたが、スワームージーの目には、狭量でしばしば皮相的にしか見えませんでした。ところが、インドはこれとまったく逆の状況で、霊性は、国民の精神的中核をなしていたものの、ヴェーダーンタの主要な教えを実行できないままでいました。そのうえ、長年にわたる外国人による搾取や社会的・経済的・政治的自由の欠如が、インドの人々を貧困と無秩序と無気力の状態におき、これをスワームージーは、タマスと死の徴候ととらえていました。したがって、インドにとって最も必要なものは宗教ではなく、社会的・国民的な意識の覚醒であると説いたのです。他方、西洋にとって最も必要なものは、他の宗教との調和を図り、自己の内面生活を深化させる新しい宗教観念であり、より一層内観的な、そして黙想的な宗教観念であると、説いています。簡潔に言うならば、インドにおける彼の使命は、人々を目覚めさせることであり、西洋における彼の使命は、人々の進歩の速度を遅らせることだったのです。

スワームージーが初めて米国にやってきた時、インドと西洋との間の一種の相互扶助を心の中に描いていました。つまり、インドは、より成熟した精神的な見方を西洋に提供し、西洋はお金や技術や組織方法によってインドを助ける、といったイメージです。スワームージーが米国からインドに帰国する途中、特にアラシंगा・ペルマルのようなマドラス在住の信者たちや自身の兄弟弟子に宛てて書いた手紙を読みますと、西洋からの援助に期待する彼の期待がいろいろと揺れ動いていたことがわかります。時々アメリカ人の気前の良さについて書いているかと思えば、インドの人々を助けるのに彼らは何もしてくれない、とも書いています。尤も、こうした問題の大部分は、伝統的なキリスト教徒や聖職者たちによって歪められたインド観から派生してきていたのですが、スワームージーは、西洋がインドにとっての大いなる収入源になるだろうという幻想を早々と捨てたように思われます。

スワームージーはまた、経験を積んでいくにしたがって、彼のメッセージが西洋に受け入れられるだろうという考えをも変えていきました。彼の演説に対する聴衆の最初の反応やマスコミの追従は、彼のヴェーダーンタに関するメッセージが、西洋の大衆に受け入れられるだろうという希望を一時大きく膨らませたのですが、次第に彼は自分の

樂觀論を取消し、ひとたび彼が西洋を去ると同時に、大衆の熱狂は冷めてしまうであろうと考えたのです。しかしそれにもかかわらず、彼はインドの真価を、単に西洋のマスコミだけでなく、西洋の偉大なる思想家たち、特に彼の才能や心の偉大さがわかるハーバード大学の教授たちに理解してもらうことが大切だと、考えるようになりました。そこで彼は、弟子のアラシंगाに手紙を書き、「外国の人々によって認められることは、インドを目覚めさせることに繋がるし」また「ここ米国における私の働きが、インドに大きな反響をもたらすということを、君は知っているかい？」とも言っています。それと同時にスワームージーはまた、米国人や英国人の中に、特に彼が滞在した町々に、彼の教えにどこまでも従っていこうとする数は少ないが真面目な人々もいる、ということを発見いたしましたので、同じ手紙の中で、「日々この人々は、私のことを理解してくれるようになってきており、内緒の話だが、君が考える以上に私はこちらで人々に影響を与える存在になりつつあるんだよ。」とも書いています。

西洋へのメッセージ

では西洋に対してスワームージーが伝えようとしたメッセージとは、いったい何でありましょう？ 驚くべきことに、それはヴェーダーンタの「不二

元論」であり、彼の師のラーマクリシュナに関しては、その名前すらほとんど口にしませんでした。このことは私たちにも奇妙な感じを与えますが、ましてや彼の兄弟弟子たちにとっては、なおさらのことだったに違いありません。しかし、彼にはそうするだけの十分な理由があったのです。一つの理由は、東洋と西洋における様々な発達段階に関する一つの理論を持っていたからなのです。スワームージーは、インドはほとんど死んだように眠っている昏睡状態「タマス」に陥っているので、この眠りから目覚め、すこし活発な「ラジャス」の状態を楽しませる必要がある、と感じていました。つまり、貧しい人々に対してパンを与えるだけでなく、少しの贅沢を味あわせることが、インドの人々を眠りから目覚めさせるのに役立つのではないかと考えたのです。「今は、人々に放棄を説くべきではない。彼らは十分過ぎるほど既に放棄している。だから、今や活発な活動をすべき時なのだ。」と。だからこそ、スワームージーが最ももつともよく口にした「目覚めよ！立ち上がれ！ゴールにたどり着くまで休むな！」という言葉は、インド国内だけで発せられましたし、神殿に鎮座する神々でも、自分の胸の奥にいる神々でもなく、貧しく虐げられている人々の中にいる神、つまりダリッドラ・ナラーヤナへの礼拝を、強く勧めていたのです。

さて、インドの人々が「タマス」の状態に陥っていたのに対し、西洋の人々は、異常過ぎるほどの「ラジャス」の状態にどっぷりと浸かっていました。スワームージーは、西洋人の心は外向的であり、快樂や物質的向上や富や贅沢に向けられていることを知りましたが、世俗の生活や財産を楽しんでいた彼らが、そうした外的な物から得られる幸福に限界を感じてきている事実にも、気づきました。それでスワームージーは、西洋においても多くの人々が、ヴェーダーンタの不二一元論を理解するのに必要な「放棄」という概念を理解し得る機会が訪れた、と感じたのです。彼はまた、西洋の人々が、単に教会に通う宗教よりも精神的にさらに深いものを求めていることを感じ、内なる自我の栄光を彼らと共に分かち合いたいと強く願い、さらに天国から自身に内在する神へと彼らの視点に移そうと、努力しました。このことは、イエス・キリストが人々に伝えたかったメッセージ、つまり「神の国は自身の心の中にある」や「私と父は一つである」と、同じ内容なのです。しかしながら、この二つのメッセージは人々に伝わらなかったし、十分には理解されなかったもので、スワームージーは、この教えの真意をアメリカの人々に理解してもらおうと強く望んだのです。さらに彼は、宗教の普遍的な性質、真理の同一性、科学と宗教の調和、その他数々のインド知恵を強調しようとしていました。そし

てひとたび西洋の人々に伝えるべきメッセージを定めるや、数は少ないもののこの教えを実行に移す真摯な人々がいることもわかり、彼は西洋における己の使命の本当の意義を理解したのです。それは、ただ単にインドを助けるために必要な資金を集めることではなく—それもある程度は考えられたことですが—、自国にセンセーションを起こすことでもなく—それも実際に起こったことですが—、米国や英国や究極的には全西洋社会の人々が、素直な心を持ち、真偽をはっきり識別し、ヴェーダーンタというインドの古代の知恵を身に付けてほしい、という彼の願いから出たものなのです。

未来は我々個々人に何をもたらすか？

西洋においてスワームージーが特に強調した教えは、個々人の在り方についてでした。社会や政治に関しては、米国はインドよりはるかに進歩しており、インドは米国から大いに学ぶべきものがある、とスワームージーは感じていました。また彼は、特に、女性の自由さ、貧者の上昇志向性、弱者に対する民衆の関心、囚人達が社会復帰するための援助などに、感嘆もしていました。もちろん、彼はそれだけでなく、西洋社会における富裕階級の特権を見て、それは形を変えたカースト以外の何物でもないことを感じていました。しかしながら、一般的に言って、集団生活

が個々人の犠牲の上に成り立っており、それはまさしくインドにおける状況と正反対である、と観察したのです。そこで彼は、インドの弟子たちに宛てた手紙の中で、次のように書いています。

「自由は成長のための第一条件であるが、君たちの先祖は、あらゆる自由を人間の靈魂に与えたので、その結果として宗教が発達した。しかし、彼らは身体を束縛の下に置いたため、社会は発展しなかった。それとちょうど逆のケースが西洋で、社会にあらゆる自由を与え、宗教にはそれを与えなかった。だが今や、東洋では社会の足枷が外され、西洋では宗教の足枷が外されつつ。」と。

個人的な見解からすれば、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの貢献は、前代未聞の比類なきものであったと思います。おそらく、西洋社会において、これほど多くの人々が、彼のような非キリスト教国の精神指導者から深い影響を受けたことは、なかったのではないのでしょうか。尤も、一世代前には、エマーソンやソローが、彼らの説く超越主義の哲学を通して、典型的なヴェーダーンタの概念を世の人々に伝えていましたし、クリスチャン・サイエンス（＝キリスト教科学）も、様々な東洋思想を独自のやり方で借用し、さらには神智学者達までが、より積極的にそれを摂取していました。そして、これらの運動はいずれも、東洋思想に脚

色を施し、西洋の聴衆に受け入れられやすいような形で提示されていたのです。ところで、スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、西洋の大衆に、脚色の施されていない生のままの形で提示した、インド人で最初の権威ある精神指導者でした。事実、彼は、西洋の人々の心情に合うように、秘教的な教理や、サンスクリット語の古典からの長い引用や、過度の個人崇拜などを全て避けていましたが、人々に伝えようとする彼のメッセージに関しては、一切の妥協を許しませんでした。多分そのことが、彼のメッセージに多くの人々が心を動かした原因となっているのではないのでしょうか。疑いもなく、ごく普通の人でも、スワミーの中にある威厳、精神性、清浄さ、無欲さが、彼の発する言葉に説得力を与えていることを、感じ取ることができていたはずです。たとえどんな理由があるにせよ、スワミーがシカゴにおける宗教国際会議で演説したその日から、西洋の人々の間には、東洋の知恵に対する正しい認識が生まれ始めました。ある意味で、彼がまず水門の扉を開け、ごく短期間のうちにインドから他の霊的指導者が多数訪れるようになり、その結果として今日、ヴェーダーンタの基本的教義の多くが、大衆にごく普通に受け入れられるようになっています。したがって、人々が彼らの教会の保守的で独断的な信仰を斥け、精神的な大道をしっかりと踏まえ、内面的発達や

変容や心の平安を熱心に求めていくと、彼らの精神的旅の果てには究極の悟りが得られるという、確信が人々の心の中に出来上がりつつあります。こうした傾向は、年ごとに強くなってきており、信仰生活をこのような気持ちで受け止めていく真摯な人々にとっては、まことに喜ぶべき現象と言っていでしょう。

西洋社会における集団的生活の未来

スワームーの言葉を借りて言えば、宗教を人間が己れ自身の神性を悟る手段として考える、自由で成熟した心の持ち主が増えてきているのは、確かに事実ですが、しかしだからと言って、宗教が今まで持っていた狭量さや頑迷さや排他性などが全く消え去ったわけではありません。不幸なことに、ある作用に対しては必ずその反作用があるという、科学にも宗教にも通用する真理があります。したがって私たちは、ほとんどすべての宗教に、原理主義や正統主義に基づく激しい反撃が起こる、という事実を見てまいりました。それが最も明白なのはイスラム教でありますが、キリスト教にも、ヒンドウ教にも、ユダヤ教にも、その他の宗教にも、見られます。さらに、西洋の人々の集団生活に関して言えば、一方では友愛精神や普遍性や一体性や愛があり、他方では頑迷さや悲痛さや憎悪や離反があって、これら二つの互いに相容れな

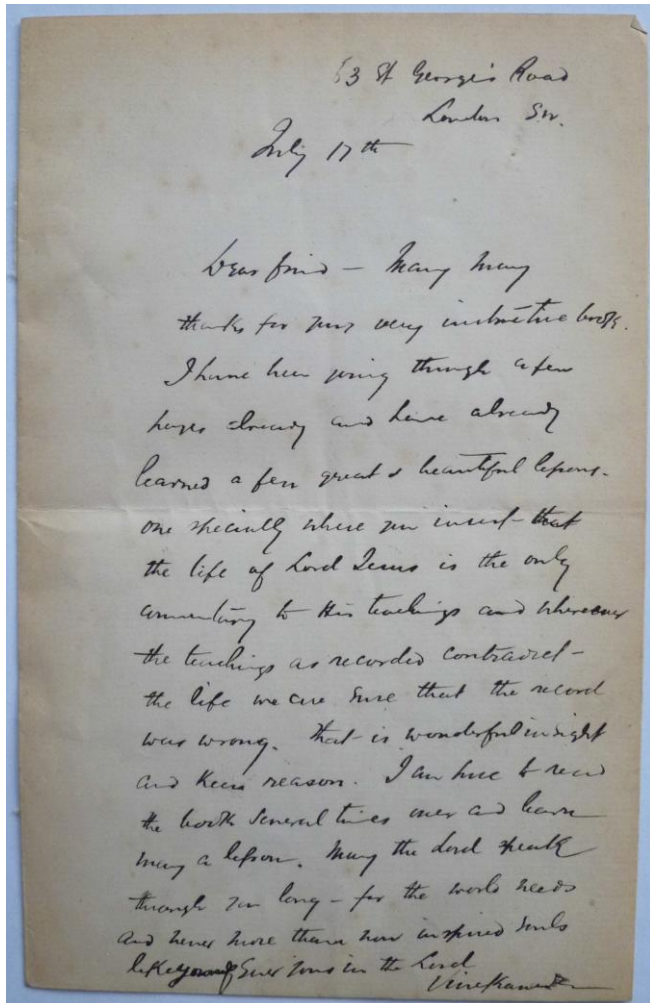
い力の緊張が存在しています。しかしそれにもかかわらず、善や正直や愛の力が最終的には勝つということを、信じ難いことかもしれませんが、少なくともそうなることを望んでやみません。このことは、今から 120 年前に、スワームーが世界宗教会議において予言しています。彼こそが、愛の勢力の種を蒔き、不寛容や憎悪に対し、死別の弔いの鐘を鳴らした最初の人だったのです。彼の予見した普遍的な平和と調和に満ちた光景がますますはっきりと現れ、憎悪や暴力へと向かう傾向が消え去っていくことを、ともに祈ろうではありませんか。そしてまた、ヴェーダーンタ哲学の理想とする、神と自己との一体感が、すべての人類を一つの家族にし、西洋のみならず世界中のすべての国民の心の中に、相互愛と敬意が育ちますようにと、祈ってやみません。

スワームー・ヴィヴェーカーナンダの未発表の書簡、発見

スワームー・ヴィヴェーカーナンダの未発表の書簡がついに最近見つかった。このような発見はスワームーの生涯や教えの新たな面がさらに明らかとされるため、スワームー・ヴィヴェーカーナンダの思想を受け継ぐ者たちは興奮を覚えるものである。

当該の書簡は、1896 年 7 月 17 日にス

ワーミージが Hugh Reginald Haweis 牧師 (1839-1901) 宛てに書いたものである。



「親愛なる友よ、大変ためになる本をありがとうございます。感謝しています。すでに数ページ読み進めており、素晴らしいことをいくつか学びました。特に、主イエスの生涯は彼の教えの体現に他ならず、記録された教えが彼の生涯と相反する場合記録の方が間違っているのだという貴殿の主張は、実に優れた洞察であり鋭い推論です。きっとこの本を何度も読み返し多くを学ぶことと思います。これからも主が貴殿を通して語られますように——貴殿のようにインスピレーションに満ちた魂を今程世界が必要としていることはないのです

から。

神と共におります貴殿の友
ヴィヴェーカーナンダ」

忘れられない物語

橋渡し

昔、ラウルとヨハンという2人の兄弟が隣同士の農場に住んでいましたが、対立するようになりました。35年間中央ドイツの隣り合った農場で機具を共同で使い、必要に応じて作業や農産物を交換し合い、ひとつも問題が起きることなくやってきましたが、初めて深刻に仲たがいでしてしまいました。ある秋に、長い間の共同作業がうまくいかなかったのです。始まりは小さな誤解でした。しかし、やがて大きな不和となり、結局、激しい言葉の応酬となって、2人の兄弟は何週間も言葉を交わさなくなってしまいました。

ある朝、ラウルの家のドアをノックする音が聞こえました。ラウルがドアを開けると、大工道具の箱を持った男が立っていました。男はアンジェリスと名乗り、「私は、2~3日でできる仕事を探しているんです」と言いました。「たぶんここなら私がお手伝いできる短期の仕事があるのではないかと思います。何かお役に立てることはありますか」

「あるとも」ラウルは、大工のアンジェリスを見てとても喜んで答えました。「君にぜひやってもらいたい仕事があるんだよ。小川の向こう側の農場を見てくれ。あれは隣人だけど、実を言うと弟のヨハンの農場なんだ。先週まで私らの間に草地があったんだが、弟がブルドーザーで川の土手まで土地をならしやがった。だから今は間にある小川が見える。弟は私への嫌がらせでやったのかもしれないが、私はあいつの鼻をあかせてやろうと思う。納屋のそばにたくさん材木があるだろう。私のために柵を作って欲しいんだ。2メートル半程の高さの柵だ。そうすれば、ヨハンの家や顔を見なくてすむってんだ」

アンジェリスは考え深く言いました。「状況はわかりました。釘と穴掘機を見せてください。あなたに喜んでいただけるような仕事ができると思います」ラウルはアンジェリスが使う材料を用意するのを手伝い、近くのエルフルトの町に出かけその日は留守にしました。アンジェリスはその日一日中一生懸命に働きました。寸法を測り、のこぎりで切って釘を打ち付けました。日が暮れる頃ラウルが戻ると、アンジェリスはちょうど仕事を終えたところでした。ラウルは、目を大きく見開いて、口をぽかんと開けました。そこには柵などまったくなかったのです。

かわりにアンジェリスは橋を架けたのでした。小川の向こうとこちらをつなぐ橋です。手すりなどすべてが揃っていて、すばらしい出来映えでした。そして隣人である弟のヨハンが手をいっばいに広げてやって来ました。「僕が散々いろいろ言ったりやったりした後でこの橋をかけるなんて、兄さんこそ本当の兄弟だよ」ヨハンは微笑みました。2人の兄弟は、それぞれの橋のたもとに立ち、それから真ん中まで進んでお互いの手を取り握手しました。彼らが振り返ってみると、アンジェリスが道具箱を肩にかけるところでした。

「だめだめ、待って。2~3日いてください。あなたにお願いしたい他の仕事がたくさんあるんですよ」ラウルは叫びました。

「できればもっといたのですが、橋を架けなければいけない所がたくさんあるんですよ」とアンジェリスは心を込めて答えました。

今月の思想

「私は愛を持ち続けることにした。憎しみは、負うには大きすぎる重荷である」

(マーティン・ルーサー・キング・ジュニア)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp